

執筆者プロフィール (掲載順)

学会誌 2512、2020年七月)

江口啓子 (えぐち・けいこ)

豊田工業高等専門学校一般学科講師 (中世の絵入り物語 (お伽草子))

仲島ひとみ (なかじま・ひとみ)
国際基督教大学高等学校教諭 (日本語学 (文法))
〔著書・論文〕「国語をめぐる『言陔』 (共著、岩波ジュニア新書、二〇二二年)、『詳説古典文法』 (共著、筑摩書房、二〇二二年)、鈴木ひとみ (副助詞サエ (サ)) の用法とその変遷―ダニとの関連において」 (日本語学論集 1、二〇〇五年)

有田祐輔 (ありた・ゆうすけ)

大阪府立茨木高等学校教諭

森木三穂 (もりき・みほ)

独立行政法人国立高等専門学校鶴岡工業高等専門学校創造工学科基盤教育グループ助教
(中古文学、国語教育)

〔著書・論文〕「ユーザーエクスペリエンスを意識した表現の力―おすすめ本のPOP・帯制作を通して」 (日本高専学会誌) 25―4、二〇二〇年〇月、「文理融合型の国語教育―「ものづくり」を活用した古典教育の方法」 (日本高専

学雑誌 2512、2020年七月)
江口啓子 (えぐち・けいこ)
豊田工業高等専門学校一般学科講師 (中世の絵入り物語 (お伽草子))
〔著書・論文〕「『小敦盛』の主題の変遷―高僧の物語から女人往生の物語へ」 (伝承文学研究 71、二〇二二年八月)、「男装と変成男子」『新蔵人』絵巻に見る女人成仏の思想」 (中世文学 65、二〇二〇年六月)、『室町時代の女装少年×姫「ちごいま」物語絵巻の世界』 (共著、笠間書院、二〇一九年)

佐々木孝浩 (ささき・たかひろ)

慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授 (日本古典書誌学)

〔著書・論文〕「芳賀矢一」『国文学』の誕生 (岩波書店、二〇二二年)、『日本古典書誌学論』 (笠間書院、二〇一六年)、『日本の書と紙―古筆手鑑』 (かたばみ帖) の世界 (共著、三弥井書店、二〇二二年)

近江弥穂子 (おうみ・みほこ)

横浜市立あざみ野第一小学校学校司書

加藤弓枝 (かとう・ゆみえ)

↓編者。奥付参照

加藤直志 (かとう・ただし)

↓編者。奥付参照

飯倉洋一 (いいくら・よういち)

大阪大学名誉教授 (日本近世文学)
〔著書・論文〕『前期読本怪談集』 (校訂代表、国書刊行会、二〇一七年)、『上田秋成 絆としての文芸』 (大阪大学出版会、二〇二二年) 『秋成考』 (翰林書房、二〇〇五年)

加藤十握 (かとう・とつか)

私立武蔵高等学校中学校教諭 (近世文学)
〔著書・論文〕「古典を読む宮為について」 (読まなければならぬはじまらない―いまから古典を (読むために) 文学通信、二〇二二年)、『上田秋成研究事典』 (共著、笠間書院、二〇一六年)

三宅宏幸 (みやけ・ひろゆき)

↓編者。奥付参照

山田和人 (やまだ・かずひと)

↓編者。奥付参照

永田郁子（ながた・いくこ）

滋賀大学教育学部附属中学校教諭（国語科教育
カリキュラム・マネジメント）

【著書・論文】「社会に開かれた教育課程」における国語科の単元構成のあり方―2年「郷土を愛する達人のこぼれ」インタビュ―記事作成をとおして」（滋賀大学教育学部附属中学校 研究紀要）62、二〇二〇年、「滋賀大附属中版『をかし』『あはれなり』歳時記―古典随筆作品の『もの』の見方・考え方』をもとに生徒の『判断』をゆさぶる学習指導の研究」（滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要）63、二〇二二年、「個の学び・協働の学びの中の『問い』を立てる力の育成―総合的な学習の時間『BANKO INME』における生徒の『問い』の変遷から見えてくるもの」（滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要）63、二〇二二年）

岩崎彩香（いわさき・あやか）

青森県立八戸北高等学校教諭（近世文学、学校
管理職研究）

高須奈都子（たかす・なつこ）

大阪商業大学非常勤講師（服飾史（近代日本）
【著書・論文】「正徳ひな形」にみる身分階層による小袖の特徴―西川祐信の眼を通して」（石

上阿希・加茂瑞穂編「西川祐信「正徳ひな形」―影印・注釈・研究」臨川書店、二〇二二年、「帯揚」「帯枕」の発生と呼称の定着に関する一考察」（服飾学研究）3―1、二〇二二年三月）

永吉寛行（ながよし・ひろゆき）

宮崎大学准教授（国語教育学、和歌文学）

【著書・論文】「中学校国語「比較読み」指導と古典教材開発の連関性―読解力向上の視点から」（月刊国語教育研究）593、二〇二二年九月、「メタ認知を行う生徒を育てる国語科学習指導法―『徒然草』『仁和寺にある法師』の授業を通して」（宮崎大学教育学部附属教育協働開発センター研究紀要）28、二〇二〇年三月、「高等学校における古典和歌学習について―新科目「言語文化」を視野に入れた試み」（語文）165、二〇一九年二月）

○くずし字一覧表（字例の墨書）

松本文子（まつもと・あやか）

愛知県立名古屋西高等学校非常勤講師（書道）
【著書・論文】「神龍半印本で学ぶ 手本閣亭序」（編者、教育図書、一九九八年）

○現古絵合わせカルタ

谷口悠・上久保咲穂・三田村幸菜・遠藤杏・

若井花楠子・西川実那・稲田香保
（二〇二一年度同志社大学プロジェクト科目履修生）
イラスト・遠藤杏
書写初案・若井花楠子

○現古絵合わせカルタ（書写）

日比野由佳（ひびの・ゆか）

同志社大学大学院文学研究科博士前期課程

編者

同志社大学古典教材開発研究センター

本研究センターは、古典に備わっている豊かな教材性を追求し、全国の古典文学・国語学・国語科教育の専門家や書誌学・文献学の専門家とも協力することで、子どもたちの古典への興味関心を喚起できるくずし字や和本を用いた新しい古典教材の開発と実践を目的として活動しています。
HP: <https://kotekiri20.wixsite.com/cdemcjl> Twitter: @kotekirinokai

山田和人 (やまだ・かずひと)

同志社大学教授 (日本近世文学)

[著書・論文] 『洛東遺芳館所蔵 古浄瑠璃の研究と資料』(和泉書院、2000年)、『竹田からくりの研究』(おうふう、2017年)、「初学者のためのくずし字教材の可能性と課題」(『同志社国文学』95、2021年12月)

加藤直志 (かとう・ただし)

名古屋大学教育学部附属中・高等学校教諭 (国語教育、中古文学)

[著書・論文] 『『伊勢物語』第六十九段「狩りの使ひ」の授業実践—「古典探究」を見据えた試み』(『日本文学』71—11、2022年11月)、「くずし字による古典教育の試み・中古文学編—研究と教育という〈両極〉」(『古代文学研究 第二次』30、2021年10月)、『「書くこと」の授業をつくる』(共著、ひつじ書房、2021年)

加藤弓枝 (かとう・ゆみえ)

名古屋市立大学大学院准教授 (日本近世文学・日本古典書誌学)

[著書・論文] 『絵入百人一首の出版—女子用往来物を中心に』(『百人一首の現在』青簡舎、2022年)、「正保版『二十一代集』の変遷—様式にみる書物の身分」(『雅俗』19、2020年7月)

三宅宏幸 (みやけ・ひろゆき)

愛知県立大学准教授 (日本近世文学)

[著書・論文] 『馬琴研究—読本の生成と周縁』(汲古書院、2022年)、『城郭の怪異』(共著、三弥井書店、2021年)、「寛政期読本『怪談雨之燈』の研究と翻刻」(『愛知県立大学説林』69、2021年3月)

未来を切り拓く古典教材

和本・くずし字でこんな授業ができる

2023 (令和5) 年3月26日 第1版第1刷発行

ISBN978-4-86766-003-4 C0095 ©著作権は各執筆者にあります

発行所 株式会社 文学通信

〒114-0001 東京都北区東十条1-18-1 東十条ビル1-101

電話 03-5939-9027 Fax 03-5939-9094

メール info@bungaku-report.com ウェブ <https://bungaku-report.com>

発行人 岡田圭介

印刷・製本 モリモト印刷



ご意見・ご感想はこちらからも送れます。上記のQRコードを読み取ってください。

※乱丁・落丁本はお取り替えいたしますので、ご一報ください。書影は自由にお使いください。